

【為替差損益】

かわせさそんえき

商品の輸出入を外貨建てで行なう際、売上や仕入は出荷時等に計上しますが、計上時と決済時の為替レートが同じとは限りません。計上時と決済時の為替レートの差により発生するのが、「為替差損益」です。

為替差損と為替差益

為替差損益は、「為替差損」または「為替差益」という勘定科目で仕訳されます。本業によるものではなく、為替レートの差額により生じるので、「営業外収益」または「営業外費用」になります。

外貨建て取引のルール

外貨建て取引をどのように経理処理するかは、「外貨建取引等会計処理基準」に定められています。通常、外貨建ての売上や仕入を円で記帳するときには、取引発生時の為替レートで円換算します。

なお、前月末の為替レートや前月平均の為替レート、当

月末や当月平均の為替レートで円換算することも、継続適用を条件に、それが合理的であることを前提に認められています。

また、期中に発生した売却金や買掛金が期末に残った場合は、決算時の為替レートで評価替えを行いますが、このときにも為替差損益が発生します。

為替予約とは

為替レートの変動による損失を回避するために、為替予約を行なう会社もあります。

「為替予約」は、銀行との間で、将来の指定された期日に、事前に決めた為替レートで、通貨を売り買いする契約を結ぶものです。

このときのレートは、予約時の直物レート（即時受渡しにかかる為替レート）と、2つの通貨の金利差によって決められます。為替予約をすることで、為替相場の変動による影響を受けずに済みます。

担当者なら知っておきたい

第10回

「経理用語」



(株)CFO代表
税理士・
米国公認会計士
高橋 和徳

【DCF】

でいーしーえふ

DCFとは「Discounted Cash Flow」の略で、会社が将来にわたって生み出す収益を現在の価値に割り引いて、企業価値を算出することです。

が自由に使えるお金という意味です。

資本「コスト」とは

具体的には、事業計画を策定して将来のフリーキャッシュフロー（FCF：Free Cash Flow）を算定し、それを適切な割引率で割り引いて求めます。M & Aなどで企業の売買価格を算定するときなどにも使われます。

割引率として使われるのがWACC（Weighted Average Cost of Capital）で、「加重平均資本コスト」です。これは、企業が投資家、金融機関等からの資金調達にかかるコストを加重平均したものです。

資本コストは、投資家等の側から見たときの期待収益率となります。

FCFとは

FCFは、企業の営業キャッシュフローから投資キャッシュフローを差し引いたものです。「営業キャッシュフロー」は営業活動から生じるキャッシュの増減を指し、「投資キャッシュフロー」は固定資産の取得・売却など投資活動によって生じるキャッシュの増減を指します。

FCFは、日々の営業と投資活動の後に残るキャッシュ（現金や現金等価物）で、企業

DCFのポイント

DCFで重要なのは、事業計画です。DCFそのものは単なる計算式なので、事業計画をどのように策定しているのか、そこで計算されたFCFが現実的な数値なのかが大事になってきます。

事業計画の前提条件や実行力の評価などを総合的に行ない、はじめて事業計画で策定したFCFの妥当性が評価できます。